

令和 6 年度

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900272		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字仲田101		
自己評価作成日	令和6年11月20日	評価結果市町村受理日	令和7年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは平成26年3月に開所し、同敷地内に同法人デイサービス、住宅型有料老人ホームがある。避難訓練などは合同で行う。季節に応じてお花見、新緑、紅葉ドライブへ出掛けたり、納涼かき氷会などを行い、季節を感じていただいている。高齢化、重度化における医療依存度が高くなっているが、主治医と連携しホームにて長期にわたり生活し、最期まで住み慣れたホームにて過ごしていただけるよう、職員体制を整えている。定期訪問診療にて定期的に処方、相談、指導を頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一ノ関駅から東に約1.2kmの住宅地の中にある2ユニットの事業所である。近くには、保育園、中学校、武道館、商業施設などもある。法人の運営する有料老人ホーム、デイサービスが同一敷地内に設置され、避難訓練なども協力して実施している。重度で意思表示が困難な利用者の割合が高く、特別養護老人ホームに似通った状態にはあるが、職員の半数以上が喀たん吸引や経管栄養などのスキルを活かし、職員一丸となって毎年複数人の看取りに取り組んでいる。「もう一つ先の介護」の考え方を職員で共有し、重度化や看取りに積極的に取り組んでおり、職員の一体的利用者支援により利用者の安全安心が一層期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年12月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定・社是を玄関に掲示し、いつでも確認できるようにしている。毎朝・夕唱和し意識統一を図っている。また実践に向け、年度目標を定め取り組んでいる。	法人の基本的考え方に沿って事業所の運営理念などを定め、毎日唱和して職員への浸透を図っている。年度末には全職員で振り返りを行い、次年度の実施目標を定めている。「もう一つの介護」の考え方を共有し、重度化や看取りなどに職員一丸で取り組んでいる。	理念に対して、職員の目線と方向性を合わせながらケアに取り組むため、年度末の全職員による振り返り、及び次年度への結果反映を継続して行われ、法人全体として更なる質の向上が進められるよう期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホーム周辺に近隣の方々によって四季折々の花の種などを巻いていただき鑑賞しながら散歩交流している。	住宅地の中、日々の散歩などで近隣の方々と触れ合う機会を大切にしている。当面は、コロナ禍以前に行っていた市内中学校の福祉体験学習の受け入れの再開など、運営推進会議の意見も聞きながら取り組みを進めたいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時などに認知症について理解していただけよう支援方法など説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しており、入居されている方の状態、入居状況、ホームでの行事等を報告しており参加いただいている方々の意見を反映しサービスに向上に努めている。	対面での運営推進会議を今年度から再開し、2か月毎に開催している。構成メンバーの見直しを行い、区長や民生委員、市役所職員、家族に加え、新たに警察や消防の関係者の参加を働きかけている。会議では、地域との交流の再開などについて話し合われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき、助言、意見交換等を行っている。	要介護認定の更新手続きや生活保護受給中の利用者の手続きを除けば、直接市と面談する機会は少なく、通常はメール等でやり取りをしている。事故報告などの案件は、法人本部から市に報告している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関等は施錠していない。夜間は防犯のため施錠し、外部警備を開始する。内部研修にて身体拘束について学習している。また、身体拘束が必要な場合においても代替方法を検討している。	運営推進会議と同じ日に身体拘束廃止委員会を開催している。これまで身体拘束とされるような事案は無いが、四半期ごとに法人全体で実施される研修や職場内でのビデオ学習会などで職員の学習に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において虐待について学習し理解を深めている。各職員がケア方法について相談し共通認識をもって、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、学習の機会を設けている。現在権利擁護を必要としている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に入居時必要なもの、入居後の生活について説明させていただき、不安軽減に努めている。契約時に契約書・重要事項説明の行い、質問があれば説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族には生活の様子を写真にし、渡している。面会時に意見をうかがっている。また運営推進会議にてホームの様子等を外部に報告している。	家族が日用品費を持参した際など、毎月1回以上は家族との面談して意見などを伺う機会はある。実際には利用者の重度化だけではなく、家族の高齢化で意見等を十分に聴き取れない場合が増えてきており、管理者は聴き取りの方法などを工夫したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各勤務帯の申し送り時や職員会議にて意見・要望等について確認している。法人事業所単位の意見・提案等については毎月開催される、事業所代表参加の会議にて協議されている。	職員意見等については、毎月行われる法人本部会議で管理者が申し入れているほか、法人幹部による職員面談が年1、2回実施し直接把握している。職員の意図するところを尊重し、管理者は職員から出された意見を原則としてそのまま法人本部に伝えるようにしている。	

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員が自己評価し、管理者が評価した評価表を本部事業所に提出し、代表者への報告としている。資格支援の支援を行い、資格手当などの待遇を見直している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の受験資格に該当する職員については積極的に受験するよう支援している。外部研修についても、希望に沿いながら参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症等の傾向をみながら交流を考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前調査にてご本人・ご家族の要望・不安等を傾聴し確認、説明を行い不安軽減に努め、信頼関係の構築をはかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居事前調査にてご本人・ご家族の要望・不安等を傾聴し確認、説明を行い不安軽減に努めている。また気軽に相談していただけるような雰囲気づくりの努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査や居宅ケアマネから得た情報、ご本人ご家族からの要望等を踏まえ支援の方法を検討し提供している。また職員間で要望・支援方法等の情報共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事前後のテーブルふき等を職員とともにいただいている。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に対しての要望等を継続してご家族へ確認し、連絡を密にし協力を頂きながらより良い支援ができるよう努めている。またご家族と気軽に相談等ができる関係づくりに努めている。ご家族に不安等があれば都度説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用されていた美容院にご家族対応にて外出される方もいらっしゃる。	訪問診療の医師や出張美容師など、定期的に訪れる方との人間関係を大切にしている。年々重度化や意欲の低下などで外出しづらい利用者が増えている中であって、職員は、生活歴や家族からの聞き取り等により、馴染みを把握し気づきに繋げようと努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室へ籠ることがないよう声かけをおこない、共同スペースにて過ごしていただきレク活動を通じて他者との交流を図るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所後も、情報提供・相談を必要に応じて行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始前は事前調査にて要望や意向の把握を行っている。サービス開始後については職員とのコミュニケーションが図りやすいよう配慮し日々のケアのケアの中で意向、要望等の把握に努めている。困難である場合には表情などを読み取り、本人の気持ちに寄り添えるよう努力している。	日常の利用者の行動や些細な動作などから本人の意向を推察し、本人視点のアセスメントと本人本位の支援に努めている。同時に利用者一人一人の生活歴を始め、個性や価値観、生活リズムや生活習慣など、利用者の思いや意向の背景の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの聞き取り、居宅ケアマネからの情報提供により、生活歴やサービス利用等の確認を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴をもとに1日の過ごし方についてご本人のリズムに合わせて対応できるよう努力している。また毎日の申し送りのなかで日々の過ごし方、心身状態などの情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケア中で状態の把握に努め、ご本人・ご家族からの要望や提案を都度話していただいている。また、毎日の申し送り、毎月も職員会議等でも意見や気づきを提案し現状を加味しながら介護計画に反映している。	利用者や家族の要望、医療関係者の所見等を踏まえ、管理者が中心になってモニタリングで把握した情報をもとに職員で協議し、3～6か月の周期で計画を見直している。重度化防止や身体機能の維持、向上を目的とした個別プランの策定に重点を置いて取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については介護記録に記録している。各勤務帯での申し送り、職員会議でも情報を共有し情報をもとに介護計画へ反映、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにとどまらず、必要に応じて柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーにて買い物したり、近所の人気カフェの店主さんに依頼しカフェメニューを提供していただき楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続して受診されている方もいるが、通院が困難である方に関しては協力医療機関に訪問診療にて診察していただいている。	入居後も引き続きかかりつけ医の治療を受けることができるよう、家族の協力を得ている。看護師2名(常勤1名、兼務1名)が勤務しており、医療機関とは十分な連携が図られている。通院困難な利用者は、市内の複数の医療機関による訪問診療を受診している。	

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤で配置している。必要に応じ個別で訪問看護を利用している方もいらっしゃる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関に情報提供を行っている。入院中も医療相談員との情報交換を行い状況を把握している。退院時には医療機関と連携を行いスムーズに退院できるよう協力いただいている。また必要な情報提供をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期について説明しており医療的ケアが必要になった場合は看護師を中心にかかりつけ医と連携を図る。また必要であれば訪問診療、訪問看護を検討。ホームでの暮らしが困難になった場合はご家族・ご本人の意向を確認しながら他施設の情報提供、申し込みなどの説明を行う。	職員は、看護職員との連携に併せ半数以上が医療的ケアを行う資格を持っていることから、利用継続を希望する看取りが必要な利用者については、「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」に基づき、利用者の希望に沿った対応を行っている。毎年、複数人を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職員研修にて学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施している。1回は夜間を想定し同敷地内のデイサービス・有料老人ホームと合同で避難訓練を行い、火災など非常事態が発生した場合には警備会社に通報される。	ハザードマップ上、水害と土砂災害の警戒が必要な地域にあることから、同一敷地内にあるデイサービス事業所や有料老人ホーム等と合同で避難訓練を行っている。食糧等の備蓄、自家発電設備の設置等、災害に対する備えは十分に確保されている。管理者は、改めて地域協力員を依頼し協力体制を確立したいとしている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修にて常に敬う心を忘れず尊厳やプライバシーを損ねない介護を行っている。食事の時間は早めに食べたい利用者や起床が遅めの朝食となる利用者などそれぞれの生活のリズムに合わせて対応している。	プライバシーの確保を含め利用者の尊厳を傷つけない言動について、各種の研修や日々の業務を通じ、適切な方法を理解、習得し実践に努めている。職員相互に声をかけ合い不適切な言動とならないよう注意し合っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気楽に気持ちを表出できるような雰囲気づくりにつとめている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人との会話のなかで、その日の気分や意向を聞き取り、意向にあった対応でご本人のペースにてすごしていただけるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんに来ていただいている。ご本人が気分にあわせ洋服を選んでいただけるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の配食サービスを導入している。行事食や季節を意識した食事を提供している。また利用者は下膳や食事前後のテーブルふきなどお手伝いをいただいている。	食事は法人の配食サービスを利用しており、食器の片づけなど可能な範囲で利用者の参加を促している。おやつや行事食では事前に利用者の希望を確認している。美味しく食べていただく工夫に努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はひとりひとり観察している。食事摂取量で不足している場合には代替えになるもの(栄養補助食品)を検討し提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が見守り・必要時介助しながら歯磨き・うがいをさせていただいている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックしており個人個人の排泄時間を把握している。汚染時には羞恥心の配慮をこころがけ交換をおこなっている。	排泄チェック表を活用して職員間で情報を共有し、状況に応じて支援している。オムツやパットの使用量が減少するよう改善に努め、また、自立排泄が難しい利用者には、自尊心に配慮した優しい対応を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク活動に、体操等で体を動かす活動をしたり便秘が続いている方に関しては主治医に相談し整腸剤など処方していただいている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は個々に決まってはいるが通院や体調不良の方には曜日を変更し対応している。また入浴拒否する方に関しては無理に誘わず、時間をおきながらタイミングをみて入浴していただいている。	利用者ごとに入浴日を定め、週2、3回入浴している。毎日、入浴できる状態にしてあることから、体調や通院に応じて柔軟に変更することも可能である。職員とのコミュニケーションを楽しみにしている利用者もあり、希望に沿った対応に努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は身体状況に合わせて休んでいただいている。居室内の室温・照明等ひとりひとりに合わせた環境づくりをしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時個々処方を確認している。変更があった場合、各勤務帯の申し送り等で報告し副作用・用法を全職員で把握している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日余暇活動を行っており他者との交流を通じ楽しみや気分転換となるよう支援している。	

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの友 (Bユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にさんぽや外気浴にでかけている。同法人でデイサービスの車両を利用しお花見、新緑、紅葉などドライブにでかけている。	殆どの利用者は、日常的な散歩や外出が難しく室内での活動が多くなっている。外出意欲の乏しい利用者や困難な方については、職員が同行して周辺を散歩したり外気浴を行ったりして、ストレス解消や気分転換を図っている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの個別小口管理帳にて管理しておりドライブなどで嗜好品を購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じてご家族・知人への連絡対応をしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事面では季節の食材を取り入れ、レク活動では季節にあった壁飾りを利用者皆さんで制作している。	外出が難しい利用者のため、季節ごとに四季を感じられるように、手作りの壁飾りなどが飾られている。両ユニットの中央の共有ホールは、床暖やエアコンなどが完備され、清掃も行き届き快適な生活空間となっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にくつろげるようにしている。共有スペースのテーブルの座席に関しては気の合う方との配置に配慮している。利用者ご本人の好きな場合でくつろげるような環境作りをこころがけている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から馴染みのものを持参していた。ご家族の写真や余暇活動に制作した作品を居室に飾ったりしてすごされている。	居室にベッドや洗面台、エアコンやクローゼットが備え付けられ、利用者は自宅で使い慣れた馴染みの時計や鏡、家族の写真、手作りの飾りなどをそれぞれ思い思いの場所に掲示したり置いたりして、居心地よい居室としている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくしたつくりになっており、廊下・トイレ・浴室は手すりを設置している。利用者が自由に歩行し、トイレはわかるように目印をつけている。	